

地域での活動報告

まちなかフォーラム in 折尾（老いを支える北九州家族の会）

「多世代交流」を目的として、認知症や障害のある人の正しい理解と啓発促進のフォーラムを、学生の多い街、折尾で開催しています。

折尾地区の高校・大学に通う学生、認知症や障害のある人、高齢者や子どもとその親を含む地域の方々など、世代・属性に関わらず多くの方が参加し、交流を楽しんでいます。



子ども食堂

子ども食堂（令和2年12月末現在・市内33箇所）は、食事の提供だけでなく、子どもや大人がコミュニケーションを図りながら、安心して楽しく過ごすことのできる居場所として、地域団体等が中心となり開催しています。



支援を必要とする人が近所にいれば、見守りや助け合いを実践する

今後、さらに少子高齢化が進行する中で、地域において、一人暮らしの高齢者、障害のある人、子育て中の世帯など、何らかの支援を必要とする人の増加が見込まれます。

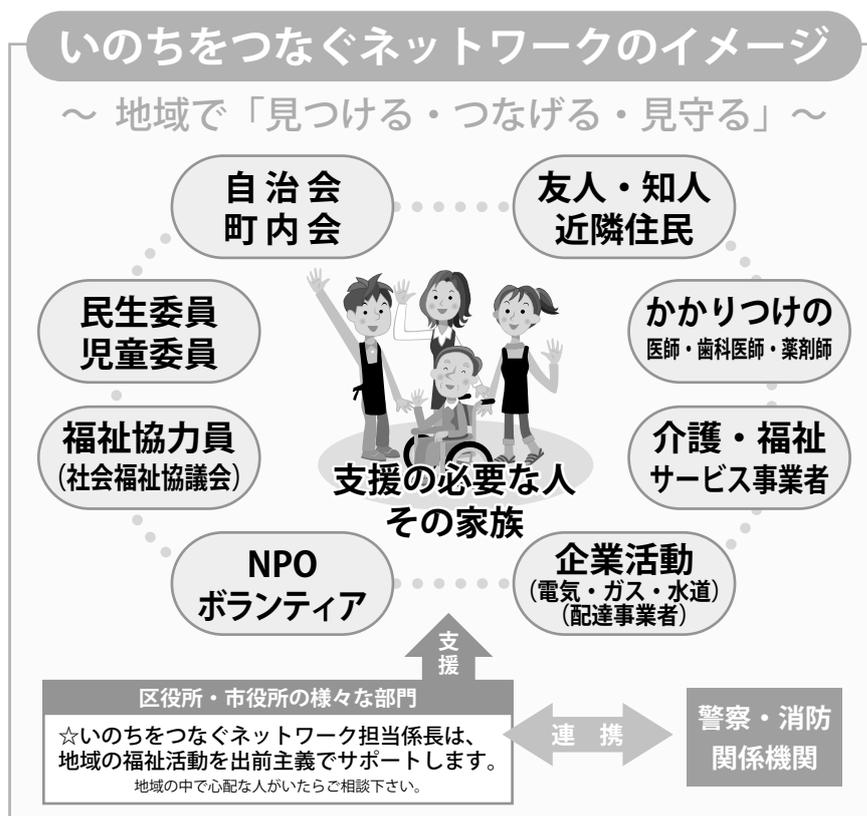
そういった人たちが孤立することのないように、そして、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、行政はもとより、誰もが地域の一員として「お互い様」の気持ちを持って、声掛けや話し相手になること、ごみ出しや庭掃除、買い物支援など、地域で協力しながらできる範囲で見守り・助け合いを実践しましょう。

【実現に向けた取組み】

◆いのちをつなぐネットワーク事業の充実・強化

高齢者のみならず何らかの支援を必要とする人が、周囲から孤立し、様々な制度やサービスや見守りが受けられない状態に陥ることがないように、民生委員・児童委員や福祉協力員をはじめ地域住民、民間企業、地域活動団体や行政などが一体となって、地域全体で「見つける」「つなげる」「見守る」をキーワードに取組みを推進し、見守りのネットワークの充実と強化を推進します。

いのちをつなぐネットワークには、市民と接する機会のある企業等の協力による「見守り部会」、地域の人々が安心して買い物できる環境づくりを推進する「買い物支援部会」があり、今後、地域に交流できる居場所を広げる「(仮称)地域交流・居場所部会」を設置し、地域全体で見守る仕組みをさらに推進します。



いのちをつなぐネットワーク事業 協力会員（見守り部会）

会員数・・・85 団体（令和2年5月末現在）

電力会社やガス会社などのライフライン、新聞・マスコミ、郵便・宅配業者
 飲食・生活に関するサービス事業者、不動産会社やマンション管理会社などの
 住まい関連の事業者、銀行や生命保険会社、地縁団体・ボランティア団体 など

【主な取組み】

● 民生委員・児童委員による活動

民生委員・児童委員は社会奉仕の精神をもって、住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、福祉事務所等関係行政機関の業務に協力する地域福祉推進の担い手であり、高齢者・障害のある人・生活保護世帯・児童・ひとり親世帯など支援を必要とする人の生活実態把握、相談支援を行ったり、各種行事への参加協力や自主的な地域福祉活動など、幅広い活動を行っています。

● ふれあいネットワーク活動（北九州市社会福祉協議会）

小学校区を基本に、市内155の校（地）区社会福祉協議会において、福祉協力員を中心に、「見守り」「助け合い」「話し合い」の3つのしくみをつくる住民主体の地域福祉活動を行っています。（以下の数値は令和元年度実績）

見守り のしくみ

- ・福祉協力員 6,830人（令和2年3月末現在）
- ・見守り対象世帯 125,407世帯
 対象世帯……高齢者世帯、障害のある人がいる世帯、ひとり親で子育て中の世帯など

助け合い のしくみ

- ・助け合い活動の対応件数 721,850件
 対応内容……話し相手、ゴミ出し、買い物支援、生活情報の提供、薬とり、庭掃除、洗濯、布団干し・入れ など

話し合い のしくみ

- ・連絡調整会議の開催（全155校〈地〉区社協）
 見守りや助け合いで把握した困りごとを共有・解決するために、校（地）区社協が中心となって、関係機関・団体と一緒に話し合いを行っています。